

平成27年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
本年度学校重点目標	1)生徒の豊かな成長を保証する場としての学校づくりを進める。 2)入学者の定員確保に努め、さらなる授業・部活動の充実を図る。平和の心を育む教育を推進するとともに、全員の協力で生徒一人ひとりを育てる。
本年度の具体的な取り組み	1)定員を確保し、適切な教育環境を維持する。 2)活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。 3)学力向上に努める。 4)規律ある学校生活を実現する。 5)安定した進路実績を実現する。 6)心身の健康に問題を持つ生徒の早期発見に努め、支援が必要な生徒への対応に努める。 7)地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。

本年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
1.学校経営	150名の入学定員を確保し、安定した教育環境の維持・発展を図る。	専願推薦入学者95名、一般入試志願者420名を確保する。	B	生徒募集のうえで重要となる中学校を中心に、地域内すべての中学校の進路指導主事や3学年主任を直接訪問し、説明する。	B	B
学校関係者評価者による意見		学校の魅力をリサーチしてみるのも方法だと思えます。積極的に中学校へ説明会の開催を申し入れることが大事だし、また、地域へのアピールとして、学園祭等でのマナー向上を心がけて欲しいです。				
2.総務・渉外	活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。	PTA活動の活性化をはかる。会報、企画の充実を図る。	A	PTAの方々が参加しやすい雰囲気作りや、魅力的な企画を提案していき	A	B
		安全教育、復興教育の推進に努め、避難訓練などを実施する。	A	復興防災講話は今後も実施し、生徒の意識を高めたい。	A	A
学校関係者評価者による意見		PTA役員と学校側の連携により、各種活動がスムーズに実施されたと思えます。出来るだけ、地域内の小中学校の行事を把握して行事設定をお願いしたいです。また、避難訓練・防災教育は必要なので、今後も継続して欲しいです。				
3.学習指導	自ら学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	各教科週2回家庭学習課題を出し、家庭学習の定着を図る。	B	意義とねらいを再確認し、家庭学習を充実させ学力向上を目指したい。	B	B
		定期考査前に学業不振者に補習を実施する。再考査に向けた取組を強化する。	B	欠点を減らし、家庭学習課題に真剣に取り組めるような指導を講じていき	B	B
	教員の授業力向上を図り、生徒の学力向上に努める。	授業交換や教科内授業等により可能な限り自習時間を無くし、授業時間の確保に努める。	A	来年度も行事に対応した臨時時間割を作成して対応していきたい。	A	A
		校内研修会の充実と校外研修の積極的参加に努める。観点別評価を推進する。	A	「観点別評価」に基づく通知表を作成するなど、さらに、取組を強化したい。	B	A
学校関係者評価者による意見		目標(進路・職業への意識付け)を持たせ、アクティブラーニングの取り入れと、基礎基本のバランスを良くして欲しいです。また、学習習慣と意欲の繋がりが大切と思えます。学習習慣、学習意欲とも少しずつ成果が表れてきているように思えます。				
4.生徒指導	基本的な生活習慣の確立、学習規律の徹底を図り、生徒指導上の問題行動(いじめ問題を含)を一層減らす努力をする。(未然防止と、事後指導の徹底)	「チェックシート」を利用し、遅刻を昨年より減少させる。	B	学年集会、各クラス、ホームルームで啓蒙指導する。	B	B
		頭髪・服装についてのマナーアップ運動を通年で実施する。	A	学年集会、各クラス、ホームルームで啓蒙指導する。	A	A
		部活動参加率を男子81%、女子76%に高める。2年次以降の退部者を減少させる。	A	先生方のさらなる協力、研修参加等による部活指導の向上を図る。	A	A
学校関係者評価者による意見		どこまでルール化するかという問題があると思うし、生徒指導上の問題は、いじめ・不登校・退学・異性等多岐に渡るので、その取組についても報告して欲しいです。基本的な生活習慣については、家庭との連携が大切だと考えます。				

5.保健課		基本的生活習慣を確立し、自ら健康維持・増進に努めるよう指導する。特に睡眠について指導、アンケートを実施する。平日の就寝時間12時間以降 数値目標35%以下 平日の睡眠時間6時間未満 数値目標25%以下	A	現状を考えると、12時まで就寝すれば良いと思われるので、目標の記述方法を変更していきたい。また、アンケート項目の一部変更と平日・休日の起床時間の差の把握に努めたい。	A	A
		心身の悩みや生活の乱れ等による来室者に対し、面談したり改善策を考えたりし、自分で解決していけるよう支援する。	A	出来る限り個別にゆっくり話を聞き、一緒に考える時間を確保したい。	A	A
学校関係者評価者による意見		大変よく頑張っていると思います。今後とも継続して欲しいです。また、健康管理については、家庭での管理が基本だと思います。この先、保健室利用増加に伴い、対応できる人員、スペース、時間確保の問題が出てくると考えられます。				
6.相談課		サポートを必要とする生徒に対し、身近な助言者として相談活動を実施する。自立のための援助と支援を継続し、実践能力を育成する。	B	サポート生に対しては継続的にカウンセリングを実施し、一般生に対しては、状況把握に努め、早期に対応する。	B	B
		相談課と不応適生徒指導員は学年会と連携し、不登校生の早期発見に努め、早期改善に努める。	A	学校カウンセラーの活用により、問題を抱える生徒・保護者の安定につなげたい。	A	A
学校関係者評価者による意見		良く取り組まれていると思います。生徒が抱える不安や悩み、不応適対応の状況など多様化していると思いますが、個別にしっかりと対応を行い、また、相談できる場が用意されていることは、生徒にとっても心強いことだと思います。基本は、学級担任のカウンセリングなので、担任の仕事軽減・カウンセリング能力の向上を期待します。				
7.進路指導	自分を知り、自分を生かす進路の発見、それを可能にする基礎的な学力と実践的行動力を育成する。	盛岡大学・同短期大学部をはじめとする上級学校への進学率を8割以上を目指す。	B	教進コースでは児童教育学部の枠をうめることができるように、1学年からの指導強化必要だと	B	B
		進学コース・教進コースにおいても、センター試験を受験させ特進コースと合わせて、国公立大学進学希望者4割の合格を目標とする。	B	今年度のように、過去問を分析し早期取組を継続したい。また、小論文では、全教員での取組を実施したい。	B	B
		基礎学力の定着を目的にした、マナトシを通年で実施する。	B	「進路マップ」などで顕著な成果が表れていないため、毎朝の、担任チェックが必要不可欠と考える。	B	B
学校関係者評価者による意見		適切な目標設定や情報提供による進路指導も、基礎学力の定着を目的とした取組も、どちらも効果的な取組として実施されていると思います。目に見える成果が表れるには時間を要するかもしれませんが、今後も継続して欲しいです。県内唯一の大学附属高校として、盛岡大学・短期大学部への進学率向上を目指し、学校の特色となることを期待したいと思います。				
8.家庭・地域との連携	地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。	地域活動やボランティア活動への生徒参加を奨励し、地域との交流を図る。また、各部で目標を決めて取り組む。	A	1学年の被災地遠足は、単年度で終わることの無い継続的な取組が必要であると思われる。特定クラブに偏りがちなボランティア活動を全クラブに広げていきたい。	A	A
		学校の各種情報を保護者や地域の方々に発信する。	B	SNSを利用した更なる情報発信を検討したい。情報の管理には、細心の注意を払って行きたい。	B	B
学校関係者評価者による意見		HPは盛大・短大との連携を考えて欲しいし、HP充実と学園祭等の高校紹介も頑張ってもらいたい。ボランティア活動については、地域からも高く評価されているので、今後も継続して欲しいです。学校の情報提供やボランティア以外の活動の部分でも地域から信頼され、より身近に感じてもらえる様な取組を期待したいです。				
9.学校独自の活動	建学の精神に基づき広くキリスト教主義の理解を広める。	全校礼拝は全職員・全生徒が聖書・讃美歌持参で出席する。	A	礼拝時に、宗教委員と担任によって、聖書・讃美歌の有無を確認する。	A	A
		宗教委員による司会・会場準備と説教者の確認をする。	A	宗教委員会の計画に柔軟性を持たせ、始業・終業礼拝も生徒による司会・準備を行う。	A	A
学校関係者評価者による意見		建学の精神に基づく教育は学校の大きな特色、基盤だと思うので、今後も大切に取組んで欲しいです。				

※達成状況は教職員による学校評価アンケートや保護者・生徒のアンケート、1年間の業務遂行状況を勘案し校長がA～Dの評価をしたものである。(A 適切である B おおむね適切である C あまり適切ではない D 全く適切ではない)

※学校関係者評価は自己評価の適切さと改善策の適切さについてAからDの評価をしたものである。(A 目標を十分達成している B 目標を達成しているが改善の余地がある C 目標を達成するには幾つかの課題がある D 課題が多く改善が必要)